福生市立第一小学校 第1学年1組

1	福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国	
	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	0. 0%	0. 0%	
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	0. 0%	0. 0%	
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	0. 0%	0. 0%	
学びに	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある	0. 0%	0. 0%	
に向か	,	26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	0. 0%	0. 0%	
がう力	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、から かったりしていない。	0. 0%	0. 0%	
	学力と関係が 深い質問		0. 0%	0. 0%	
			0. 0%	0. 0%	
	(木V : 貝巾)		0. 0%	0.0%	
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
	言葉・情報・言		に成果がある。		
	語文化		に課題がある。		
	話すこと・聞		に成果がある。		
国語	くこと		に課題がある。		
語	書くこと		に成果がある。		
			に課題がある。		
	読むこと		に成果がある。		
	.,,,,		に課題がある。		
	数と計算		に成果がある。		
	3/C 113F		に課題がある。		
	図形		に成果がある。		
算数	23/1/		に課題がある。		
数	 変化と関係		に成果がある。		
	交にこめが	▲全国平均正答率を○. ○ポイント下回り、() 設問	に課題がある。		
	データの活用		に成果がある。		
	/ / V/10/TI	▲全国平均正答率を○.○ポイント下回り、()設問	に課題がある。		
_	旧本の中化	0 旧辛の中能と助士に	1-311-1-4	_	

2 児童の実態

国語

【書字】全体の8割程度の児童が字を綺麗に書こうとする意識をもって書字の学習に取り組んでいる。1割程度の児童は姿勢の崩れなどが原因で整った字を安定して書くことができない。

【音読】3割程度の児童が音読中に読んでいる部分を見 失うことがあり、苦手意識をもっている様子がうかがえ る。

算数

【数の合成・分解】5割程度の児童が10の合成・分解のパターンを暗記し、問題に答えることができている。

(文章題)

・2割程度の児童が問題の意図を正しく理解しないまま問題を解きはじめ、誤答することが多い。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

国語

【書字】間違いやすい字を繰り返し復習させるとともに、 体育の時間などに体幹トレーニングを導入するなどして、姿勢を維持するための筋力を鍛える活動を盛り込む。

【音読】必要な児童には、字を指で辿らせたり、リーディングトラッカーを使用させるなどの支援を行う。

算数

【数の合成・分解】繰り返しの復習に加え、歌や図など、聴覚や視覚などの感覚から働きかけ、一層の定着を図る。 【文章題】大事な言葉や数に下線を引いたり、余白にメモを取ったりするなど、文章題を解くときの作業を繰り返し問題を解く中で習慣づける。

	」ドリルの実施状況 令和4年8月末時点で完了している児童 ○. ○% (○人/○人中)	
個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	
確認テストの実施状況		〇. 〇% (〇人/〇人中)

福生市立福生第一小学校 第1学年2組

1	福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国	
		8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	0. 0%	0. 0%	
	感情の コントロール	53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	0. 0%	0. 0%	
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	0. 0%	0. 0%	
学びに	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある	0. 0%	0. 0%	
に向か	11000	26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	0. 0%	0. 0%	
がう力	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、から かったりしていない。	0. 0%	0. 0%	
			0. 0%	0. 0%	
	学力と関係が深い質問		0. 0%	0. 0%	
	休V 貝 □		0. 0%	0. 0%	
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	1		
	言葉·情報·言 語文化	○全国平均正答率を○. ○ポイント上回り、() 設問	 に成果がある。 に課題がある。		
	話すこと・聞]に成果がある。		
国	くこと		に課題がある。		
語	書くこと		Iに成果がある。 Iに課題がある。		
	読むこと		に成果がある。		
	,,,,,		に課題がある。		
	数と計算		Iに成果がある。 Iに課題がある。		
	SVITY:		に成果がある。		
算数	図形	▲全国平均正答率を○. ○ポイント下回り、() 設問	に課題がある。		
数	変化と関係		に成果がある。		
	久山に内が		に課題がある。		
	データの活用		に成果がある。		
	1	▲全国平均正答率を○.○ポイント下回り、() 設問	に課題がある。		

2 児童の実態

【国語】学習意欲が高く、積極的に発言する児童が多数いる。しかし、発言して終わりという認識があり、友達の意見を聞いて反応できる児童は少ない。

- ・ひらがなの読みについては、9割の児童ができる。音読は、読む速さに差が見られる。書きについては、鏡文字や似ている字を書いてしまうなど、定着がまだできていない。
- ・拗音や促音の判別が全体的に課題である。

【算数】数字の順番や大きさについては、理解が見られる。(手を使っている子も含む)足し算は習得率が高いが、引き算は苦手意識をもつ児童もいる。

・全体的に、文章題が苦手である。数字のみに注目してしまい、言葉の意味を理解できずに式をたててしまう。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

【国語】

- ・友達の考えを聞き返す発問を適宜取り入れる。
- ・隙間の時間にひらがなのフラッシュカードを見せ、発音しながら、繰り返し正しい文字を認識させていく。
- ・「書くこと」については、ビジョントレーニングの時間 を授業の始めに設け、少しずつ定着を図る。
- ・朝学習などの隙間時間に、拗音促音のまとめたプリントを繰り返し取り組ませる。

【算数】

- ・スモールステップで発問し、理解しているのかどこでつまずくのかを確認しながら授業をすすめる。
- ・文章題では、想像できるように挿絵を使いながら行う。その都度言葉の意味を確認する。
- ・立式の際は、理由を伝える場面を授業内で設ける。

4 ミライシードとの連携機能を活用した取組 個別ドリルの実施状況 令和4年8月末時点で完了している児童 ○. ○% (○人/○人中) 確認テストの実施状況 令和4年8月末時点で完了している児童 ○. ○% (○人/○人中)

福生第一小学校 第2学年1組

1	福生市学力・学習状況調査の結果					
	分類	意識調査の質問項目	組	全国		
	感情のコントロール	5 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	92.0%	90.1%		
		25 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	84.0%	82.9%		
224		26 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	92.0%	91.5%		
学びに	目標の達成	10 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることが ある	56.0%	55.7%		
向か		15 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	88.0%	88.7%		
に向かう力	他者との協働	56 わたしは、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人 ひとりの心や命を大切にしている。	72.0%	75.5%		
	NA	17 新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。	68.0%	83.3%		
	学力と関係が 深い質問	18 目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している。	80.0%	86.2%		
	1水、草山	3 本や新聞を読んでいる。	62.5%	70.0%		
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題				
	言葉・情報・言 語文化	▲全国平均正答率を7.6ポイント下回り、(漢字の読み(町を	あるく。)) 設問	に課題がある。		
玉	話すこと・聞 くこと	▲全国平均正答率を 17.7 ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ) 設問に課題がある。				
語	書くこと	▲全国平均正答率を27.7ポイント下回り、(場面の様子を読み取って書く)設問に課題がある。				
	読むこと	▲全国平均正答率を 18.2 ポイント下回り、(場面の様子を読み取り, 想定される発言を書く) 設問に課題がある。				
	数と計算	▲全国平均正答率を 6.2 ポイント下回り、(2 位数-1 位数の計 問に課題がある。	算をする(繰り下	がりなし)) 設		
算	図形	▲全国平均正答率を 4.6 ポイント下回り、(点と点を線でつなぎ 題がある。	,図と同じ形を	かく)設問に課		
算数	測定	▲全国平均正答率を 6.2 ポイント下回り、(指示された時刻を指分)) 設問に課題がある。	旨している時計を	/選ぶ(7 時 45		
	データの活用	○全国平均正答率を 1.4 ポイント上回り、(絵グラフにあるもの ある。	の個数を数える)設問に成果が		

2 児童の実態

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

国語 基本的な漢字の読み書きが苦手で、1年生の漢字が 定着していない児童がいる。また、場面の様子を読み取る ことや、読み取ったことをまとめることが難しい児童が 多い。 国語 漢字の定着を図るため、習った漢字は日常的に使うようにする。また、漢字小テストを週1~2回程度行い、新出漢字を定着させるようにする。ミライシードのドリルパークを活用して、復習も行っていく。文章を読み取る力を伸ばすために、普段から読書をする習慣を付ける。授業ではワークシート等を活用し、まとめ方を学ばせる。

算数 引き算では、繰り下がりがある問題より繰り下がりがない問題に課題があった。後から学んだことだけで問題を解決しようとしてしまい、学習の積み重ねができていない児童がいる。また、時計の読み方に苦手意識をもつ児童が多く、実生活で活用されていない。

算数 学習を積み重ねられるように、ミライシード等活 用しながら復習も行うようにする。また、学習したことを 日常生活にも生かせるよう、生活の中で時刻を意識させ たり、簡単な計算をさせたりすることで基礎学力の向上 を図る。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	92. 0% (23 人/25 人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	64. 0%(16 人/25 人中)

福生第一小学校 第2学年2組

1	福生市学力・学	習状況調査の結果			
	分類	意識調査の質問項目	組	全国	
	感情の コントロール	5 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95.8%	90.1%	
		25 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	70.8%	82.9%	
27.4		26 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	83.3%	91.6%	
学びに向	目標の達成	10 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある	41.7%	55. 7%	
向か		15 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	87.5%	88.7%	
² う力	他者との協働	56 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、から かったりしていない。	58.3%	75. 5%	
	24 [.] BB <i>F</i> 28	18 目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している。	70.8%	86.2%	
	学力と関係が深い質問	17 新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。	70.8%	83.3%	
		22 正しい姿勢で学習している。	78.3%	82.4%	
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	į		
	言葉・情報・言 語文化	▲全国平均正答率を10.7ポイント下回り、(漢字の読み(じどう車に のる。)設問に課題がある。			
国	話すこと・聞 くこと	▲全国平均正答率を 31.7 ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ) 設問に課題がある。			
語	書くこと	▲全国平均正答率を17.9ポイント下回り、(場面の様子を読み取って書く)設問に課題がある。			
	読むこと	○全国平均正答率を14.5ポイント上回り、(文章の内容に合うものを選ぶ)設問に成果がある。			
	数と計算	○全国平均正答率を9.6ポイント上回り、(2位数-1位数の計算に成果がある。	草をする(繰り下)	がりなし) 設問	
算	図形	▲全国平均正答率を 5.1 ポイント下回り、(点と点を線でつなぎ 題がある。	,図と同じ形を	かく)設問に課	
算数	変化と関係	▲全国平均正答率を 2.9 ポイント下回り、(指示された時刻を指分)) 設問に課題がある。	旨している時計 を	選ぶ (7 時 45	
	データの活用	▲全国平均正答率を7.1 ポイント下回り、(絵グラフにあるものある。	の個数を数える	設問に課題が	
_	旧本の中部	2 旧主の中能ナツオニナ	153451 74 0 75 //		

2 児童の実態

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

国語 基本的な漢字の読み書きでは、できる児童とできない児童の差が大きくなっている。また、話を聞き、重要なところを判断・選別し、理解することに苦手を感じている児童が多い。

国語 漢字を定着させるために、ミライシードのドリルパークを活用したり、習った漢字は使うように授業の中で声を掛けたりする。また、聞く力を伸ばすために、授業の際にまずは口頭のみで説明を行ったり、連絡帳に書く情報を口頭で伝えたりして、話を聞いて必要な情報を選別できるようにする。

算数 足し算や引き算の基本的な計算方法は身に付いているものの、文章題になると正しい式や答えを書くことができない児童がいる。また、図形を描く学習に苦手意識をもつ児童が多い。

算数 文章問題を解く中で、なぜこの式になるのか、なぜこの答え方なのかを児童の発言を取り挙げながら説明する。点が書いてある紙を渡し、点をつないで好きな形を作る活動を取り入れ、楽しみながら図形を描く学習ができるようにする。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	92.	0% (23人/25人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	84.	0% (21人/25人中)

福生第一小学校 第3学年1組

1	福生市学力・学習状況調査の結果					
	分類	意識調査の質問項目	組	全国		
		14 同じ間違いをしないように気を付けている。	95.7%	91.5%		
	感情の コントロール	20 学習を始めたら、他のことに気をとられないで、集中して いる。	100.0%	92.8%		
学びに	目標の達成	12 学習して、分かったりできたりすることが増えるのはうれしい。	95.8%	95.0%		
に向か	口你,少是从	10 ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。	75.0%	63.9%		
かう力	他者との協働	1 友だちと外で遊んでいる。	95.8%	90.8%		
	学力と関係が 深い質問	23 必要なものをきちんとそろえてから、学習を始めている。	95.8%	90.8%		
		54 学校の先生が出した宿題をきちんとやりとげている。	100.0%	96.5%		
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	Ī			
	言葉・情報・言 語文化	▲全国平均正答率を18.0ポイント下回り、(文の主語を選ぶ)設問に課題がある。				
	話すこと・聞	▲全国平均正答率を7.8ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ) 設問に課題があ				
国語	くこと	3.				
一	書くこと	▲全国平均正答率を13.5ポイント下回り、(文章中の説明に沿って空欄に合う内容を書く) 設問に課題がある。				
	読むこと	▲全国平均正答率を6.1ポイント下回り、(場面の様子を読み取って選ぶ) 設問に課題がある。				
	数と計算	▲全国平均正答率を13.9ポイント下回り、(3位数-2位数の筆算をする(繰り下がりあり)) 設問に課題がある。				
算数	図形	○全国平均正答率を11.0ポイント上回り、(直角三角形を作	図する) 設問に	成果がある。		
数	変化と関係	▲全国平均正答率を12.7ポイント下回り、(かさの単位換算	をする) 設問に	課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を8.1ポイント下回り、(グラフからあては がある。	まる項目を答え	る)設問に課題		

2 児童の実態

【国語】

宿題の漢字練習などには一生懸命に取り組むが、既習 の漢字を読んだり書いたりすることに課題がある。また、 語彙が少ないため、文章を読んでも内容を理解すること ができない児童が多い。

【算数】

学習に集中して取り組もうと意識することができる。 しかし、数の仕組みを理解したり計算の基本である「繰り上がり」や「繰り下がり」のある計算を正しくしたりすることができない。また、「長さ」や「水のかさ」の単位換算にも課題である。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

【国語】

文書構成の型を指導し、書くことの抵抗感をへらす。 単元のまとめの時間に自分の考えやそれを支える理由 や事例を記述する時間を設ける。

友達と、書いた文章を読み合い、よさを伝え合う。 相手意識をもたせて、文章を書く。

【算数】

朝学習や宿題でミライシードの問題に取り組ませて、 前学年で学習したことの復習を行う。授業の中では、基礎 的な問題に取り組ませて自力で解けた時の達成感を味わ わせ、算数への意欲を高める。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	100% (24 人/24 人中)		
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	100%(24 人/24 人中)		

福生第一小学校 第3学年2組

1	福生市学力・学	習状況調査の結果			
	分類	意識調査の質問項目	組	全国	
		14 同じ間違いをしないように気を付けている。	95. 7%	91. 5%	
	感情の コントロール	20 学習を始めたら、他のことに気をとられないで、集中して いる。	100.0%	92.8%	
学びに	目標の達成	12 学習して、分かったりできたりすることが増えるのはうれしい。	95.8%	95.0%	
に向か		10 ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。	75.0%	63.9%	
かう力	他者との協働	1 友だちと外で遊んでいる。	95.8%	90.8%	
	学力と関係が 深い質問	23 必要なものをきちんとそろえてから、学習を始めている。	95.8%	90.8%	
		54 学校の先生が出した宿題をきちんとやりとげている。	100.0%	96.5%	
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
	言葉・情報・言 語文化	▲全国平均正答率を18.0ポイント下回り、(文の主語を選ぶ)設問に課題がある。			
国	話すこと・聞 くこと	▲全国平均正答率を7.8ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ) 設問に課題がある。			
国語	書くこと	▲全国平均正答率を13.5ポイント下回り、(文章中の説明に沿って空欄に合う内容を書く) 設問に課題がある。			
	読むこと	▲全国平均正答率を6.1ポイント下回り、(場面の様子を読み取って選ぶ) 設問に課題がある。			
	数と計算	算 ▲全国平均正答率を13.9ポイント下回り、(3位数-2位数の筆算をする(繰り下がりあり)) 設問に課題がある。			
算数	図形	○全国平均正答率を11.0ポイント上回り、(直角三角形を作	図する) 設問に	成果がある。	
数	変化と関係	▲全国平均正答率を12.7ポイント下回り、(かさの単位換算	をする)設問に	課題がある。	
	データの活用	▲全国平均正答率を8.1ポイント下回り、(グラフからあては がある。	まる項目を答え	る)設問に課題	

2 児童の実態

【国語】

漢字学習に意欲的に取り組む児童が多いが、日頃の学習(作文や日記等)の中で既習漢字を使うことができていない。また、語彙力のある児童は、文章の内容を確実に理解したり、わかりやすい文を書いたりすることができる一方で、語彙力に乏しい児童は、文章の内容理解や作文が難しい傾向がある。

【算数】

算数学習のどの単元においても意欲的に学習する児童が多い。しかし、発展的な問題に取り組める児童もいれば、基礎基本に立ち返って復習をする必要がある児童もおり、その差が大きい。「繰り上がり・繰り下がり」の仕組み理解や、かけ算九九の定着に課題がある児童もいる。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

国語

日記や作文指導では、既習漢字を使うことができている児童の例を取り上げ、既習漢字を使うことを引き続き 声かけしていく。また、語彙力を高めるために、本に触れる機会を定期的に設定する。朝学習や図書の時間を活用 して、様々な本の読み聞かせを行う。

【算数】

朝学習では、基礎的・基本的な問題に取り組ませて、基礎力の確実な定着を図る。授業の中では、3分程度の短時間を活用して既習事項の繰り返し指導を行う。タイムを計ったり、問題数を各自で決めたりすることで、児童の意欲を高め、また自分の成長や頑張りに気付くことができるようにする。

4 ミライシードとの連携機能を	活用した取組	
個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	75%(18 人/24 人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	54%(13 人/24 人中)

福生市立福生第一小学校 第4学年1組

1	福生市学力・学	習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国		
		8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	85%	94/7%		
	感情の コントロール	53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	65%	78.5%		
224		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	85%	92.9%		
学びに	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることが ある	50%	95.8%		
「向	,	26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	26%	89.6%		
かう力	他者との協働	104 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、から かったりしていない。	75%	79.8%		
	NA	115 テレビやラジオをつけないで集中して学習している。	75%	79.1%		
	学力と関係が深い質問	85 算数・数学の宿題で、文章題を作ったことがある。	70%	67.1%		
	M AH	81 国語の授業で、物語を作ったことがある。	75%	85.8%		
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	ĺ			
	言葉·情報·言 語文化	▲全国平均正答率を 20.6 ポイント下回り、(漢字を読む(深海をたんけんする。)) 設問に課題 がある。				
国	話すこと・聞 くこと	▲全国平均正答率を 5.8 ポイント下回り、(スケートボードでしてはいけないことを選ぶ) 設問 に課題がある。				
語	書くこと	▲全国平均正答率を 18 ポイント下回り、(本を紹介する文章の空欄に入る言葉を書く) 設問に 課題がある。				
	読むこと	▲全国平均正答率を15.2ポイント下回り、(登場人物の心情としてふさわしくないものを選ぶ) 設問に課題がある。				
	数と計算	▲全国平均正答率を 13.6 ポイント下回り、(3 位数×2 位数=5 んがある。	位数の計算をする	る)設問に課題		
算	図形	▲全国平均正答率を 5.9 ポイント下回り、(円の中心を通る直線 問に課題がある。	の長さから円の	直径を選ぶ)設		
算数	測定	▲全国平均正答率を2.6ポイント下回り、(はかりの針が指して 題がある。	いる重さを読み	取る) 設問に課		
	データの活用	▲全国平均正答率を5.2ポイント下回り、(棒グラフから2つの) 課題がある。	項目の差の人数	を選ぶ) 設問に		
2	旧帝の宝能	3 旧音の宝能を踏すった	- 哲学の美の取組	3		

2 児童の実態

(国語) 基本的な漢字の読み書きに苦手さを感じ、3年生までの漢字が定着していない児童が多い。また、文章を書くことに苦手意識をもち、要旨や感想をまとめることが難しい児童がいる。

(算数) 数と計算では、筆算の足し算や引き算、かけ算 やわり算など、基本的な計算が身に付いていない児童が 多くいる。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

(国語) 基礎基本的な漢字の読み書きの向上を目指す。 毎日、漢字の読み書きの宿題を出すとともに、ミライシードの学力調査振り返り問題を活用した家庭学習の課題を 出す。国語科の授業では、考えたことや感じたことを文章に書き表す経験を多くもたせることで、書く力を継続的に育んでいく。

(算数) 四則計算を正確に解く力を向上させるために、 ミライシードのドリルパークを活用して、2年生や3年 生の課題を解く機会を多くもつ。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	95.4% (21 人/22 人中)	
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	100% (20 人/20 人中)	

福生市立福生第一小学校 第4学年2組

1	福生市学力・学習状況調査の結果						
	分類	意識調査の質問項目	組	全国			
	感情の コントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	94. 2%	94. 7%			
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	89. 5%	78.5%			
200		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	89.5%	92.9%			
学びに	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることが ある	52.6%	65.8%			
向か	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	78.9%	89.6%			
がう力	他者との協働	104 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひと りの心や命を大切にしている。	90.0%	79.8%			
	W. L. J. BB (4.).	115 テレビやラジオをつけないで集中して学習している。	70.0%	79.1%			
	学力と関係が深い質問	85 算数・数学の宿題で、文章題を作ったことがある。	57.9%	67.1%			
		81 国語の授業で、物語を作ったことがある。	57.9%	85.8%			
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	į				
	言葉·情報·言 語文化	▲全国平均正答率を 20.6 ポイント下回り、(漢字を読む(深海をたんけんする。)) 設問に課題がある。					
玉	話すこと・聞 くこと	▲全国平均正答率を 5.8 ポイント下回り、(スケートボードでしてはいけないことを選ぶ) 設問 に課題がある。					
語	書くこと	▲全国平均正答率を 18 ポイント下回り、(本を紹介する文章の課題がある。	空欄に入る言葉を	を書く)設問に			
	読むこと	▲全国平均正答率を15.2ポイント下回り、(登場人物の心情とし 設問に課題がある。	てふさわしくな	いものを選ぶ)			
	数と計算	▲全国平均正答率を 13.6 ポイント下回り、(3 位数×2 位数=5 がある。	位数の計算をする	る)設問に課題			
算数	図形	▲全国平均正答率を 5.9 ポイント下回り、(円の中心を通る直線問に課題がある。	の長さから円の	直径を選ぶ)設			
数	変化と関係	▲全国平均正答率を 2.6 ポイント下回り、(はかりの針が指して 題がある。	いる重さを読み	取る) 設問に課			
	データの活用	▲全国平均正答率を5.2ポイント下回り、(棒グラフから2つの課題がある。	項目の差の人数	を選ぶ) 設問に			

2 児童の実態

(国語) 基本的な漢字の読み書きに苦手さを感じ、3年生までの漢字が定着していない。また、文章を書くことに苦手意識をもち、要約したり、感想を書いたりすることに不慣れ児童がいる。読書が好きな児童は多いが、活字に対しては抵抗感をもっている。家庭学習が身に付いていない児童が多い。

(算数) ICT機器を活用すると、意欲的に取り組む児童が多くいる。しかし、式と計算に関係する四則計算について身に付いていない児童が多くいる。また、図形を作図する技能が身に付いていない児童もいる。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

(国語) 漢字の定着を図るために、漢字プリントを活用し、日々の宿題と小テストを連携させ、漢字を書ける喜びを感じさせる。文章を書く課題では、その都度、既習の漢字を使うよう指導を行う。随時、読書活動を取り入れ、活字を読むことへの意欲を高めていく。配慮が必要な児童には、例示を行い、書くことへの意欲を高めていく。

(算数) 授業のはじめに既習事項を振り返る時間を取り入れ、既習事項の積み重ねを図る。また、ICT機器を活用した導入を行ったり、身近な内容に繋げ、学んだことを活用する体験を取り入れたりすることで、「できた」と感じられる授業にして、児童の学習意欲を更に高めていく。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	100%(20人/20人中)	
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	85%(17 人/20 人中)	

福生市立福生第一小学校 第5学年1組

1	福生市学力・学	習状況調査の結果					
	分類	意識調査の質問項目	組	全国			
		8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95. 2%	94. 5%			
	感情の コントロール	53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	85. 7%	77. 9%			
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	90. 5%	90. 9%			
学び	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることが ある	85. 7%	68. 8%			
に向		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	90. 3%	90. 5%			
かう力	他者との協働	104 わたしは、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人 ひとりの心や命を大切にしている。	95. 2%	82. 6%			
	学力と関係が深い質問	46 調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したり することができる。	71. 4%	66. 9%			
		40 正しい姿勢で学習している。	81. 0%	66. 3%			
		31 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由 や考え方も一緒に理解しようとしている。	76. 2%	66. 3%			
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	ĺ				
	言葉·情報·言 語文化	▲全国平均正答率を37.2ポイント下回り、(漢字の書き(今年の夏は <u>あつく</u> なりそうだ。))設 問に課題がある。					
国	話すこと・聞	▲全国平均正答率を12.6ポイント下回り、(山村さんの発表に対する質問の意図を選ぶ) 設問に課題がある。					
	くこと	に課題がある。	M / DAINVE				
国語	書くこと	に課題がある。 ▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまと く) 設問に課題がある。		, , ,			
語		▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまと	とめた文の空欄に	こ入る言葉を書			
当語	書くこと	▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまとく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合わる)	とめた文の空欄にない短文を選ぶ	こ入る言葉を書			
	書くこと	▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまとく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合わるある。 ▲全国平均正答率を 15. 4ポイント下回り、(小数の乗法,除法	とめた文の空欄にない短文を選ぶ、	こ入る言葉を書) 設問に課題が て文章題に答え			
[語 算数	書くこと 読むこと 数と計算	▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまたく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合われる)。 ▲全国平均正答率を 15. 4ポイント下回り、(小数の乗法,除法る) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 14. 8ポイント下回り、(長方形を組み合わる)。	とめた文の空欄(ない短文を選ぶ ない短文を選ぶ 去の計算を使って つせた図形の面積	こ入る言葉を書) 設問に課題が て文章題に答え 責を求める式を			
	書くこと 読むこと 数と計算 図形	▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまたく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合われる。) ▲全国平均正答率を 15. 4ポイント下回り、(小数の乗法, 除法る) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 14. 8ポイント下回り、(長方形を組み合れ選ぶ) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 2. 9ポイント下回り、(伴って変わる 2つ	とめた文の空欄/ ない短文を選ぶ 去の計算を使って わせた図形の面積の数量で、一方	こ入る言葉を書) 設問に課題が て文章題に答え 責を求める式を を求めて選ぶ)			

2 児童の実態

国語 基本的な漢字の読み書きに苦手さを感じ、4年生までの漢字が定着していない児童が多い。また、文章を書くことに苦手意識をもち、要旨や感想をまとめることが難しい児童がいる。

算数 式や答えはノートに書くことができていても、その式の意味や解き方の説明をノートに書くことを苦手としている児童がいる。また、筆算の足し算や引き算、かけ算やわり算など、基本的な計算が身に付いていない児童が多くいる。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

国語 漢字を定着させるために、ミライシードのドリルパークを活用したり、授業の中で習った漢字を使うように声掛けや指導を通して、習慣付けを図ったりする。書く力を伸ばすために、短い文章を書く機会を多く確保する。要旨や感想をまとめることが難しい児童には、見本を提示し個別に対応する。

算数 考えの根拠や結果を、図や表を用いて整理してま とめることができるようにするために、見本の文章を提 示し個別に対応しながら書かせるようにする。基本的な 四則演算が苦手な児童には、授業の開始時に四則演算の 問題を数問出し、基礎学力の向上を図る。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	95.	2% (20人/21人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	95.	2% (20人/21人中)

福生第一小学校 第5学年2組

1	福生市学力・学	習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国		
	感情の コントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95.0%	94. 5%		
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	65.0%	77.9%		
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	95.0%	90.9%		
学び	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることが ある	75.0%	68.8%		
に向	1777	26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	95.0%	90.3%		
かう力	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、から かったりしていない。	70.0%	75.0%		
	学力と関係が 深い質問	46 調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したり することができる。	50%	66. 9%		
		40 正しい姿勢で学習している。	65%	66. 3%		
		31 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由 や考え方も一緒に理解しようとしている。	70%	66. 3%		
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	į			
	言葉·情報·言 語文化	▲全国平均正答率を37.2ポイント下回り、(漢字の書き(今年の夏は <u>あつく</u> なりそうだ。))設問に課題がある。				
		▲全国平均正答率を12.6ポイント下回り、(山村さんの発表に対する質問の意図を選ぶ)設問に課題がある。				
玉	話すこと・聞くこと		対する質問の意	図を選ぶ) 設問		
国語				, , , , ,		
国語	くこと	に課題がある。 ▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまと	とめた文の空欄に	こ入る言葉を書		
国語	きくこと	に課題がある。 ▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまるく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合わる)	とめた文の空欄にない短文を選ぶ	こ入る言葉を書		
	くこと 書くこと 読むこと	に課題がある。 ▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまとく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合わる) ある。 ▲全国平均正答率を 15. 4ポイント下回り、(小数の乗法,除法)	とめた文の空欄にない短文を選ぶ、	こ入る言葉を書) 設問に課題が て文章題に答え		
国語 算数	くこと 書くこと 読むこと 数と計算	に課題がある。 ▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまとく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合われる)。 ▲全国平均正答率を 15. 4ポイント下回り、(小数の乗法,除法る) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 14. 8ポイント下回り、(長方形を組み合わる)。	とめた文の空欄/ ない短文を選ぶ 去の計算を使って わせた図形の面積	こ入る言葉を書 設問に課題が で文章題に答え 責を求める式を		
	くこと 書くこと 読むこと 数と計算 図形	に課題がある。 ▲全国平均正答率を 13. 9ポイント下回り、(文章についてまるく) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 16. 2ポイント下回り、(文章の内容と合わるある。 ▲全国平均正答率を 15. 4ポイント下回り、(小数の乗法,除法る) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 14. 8ポイント下回り、(長方形を組み合え選ぶ) 設問に課題がある。 ▲全国平均正答率を 2. 9ポイント下回り、(伴って変わる 2つ	とめた文の空欄/ ない短文を選ぶ 去の計算を使って わせた図形の面積 の数量で、一方	こ入る言葉を書) 設問に課題が (文章題に答え 責を求める式を を求めて選ぶ)		

2 児童の実態

国語:漢字の読み書きに苦手意識をもつ児童が多く、4年 生までの既習漢字が定着していない児童も多い。活字慣 れしていない児童も多く、要旨や要点を抜き取ることが 苦手な児童がいる。

算数:授業では式が立てられ、計算も自力で解くことができていても、テストなどに粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。また、簡単な四則演算が定着していない児童も多くいる。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

国語: 既習漢字定着のために、ミライシードのドリルパークを活用したり、授業の際に既習漢字を使う声掛けをしたりする。また、活字に慣れさせるために、学級文庫の充実を図り、朝読書の時間を確保する。

算数:粘り強く取り組むことができるようにするため、自力解決の時間を確保し、集団可決の時間に図や表、グラフなどを使って説明させるようにする。簡単な四則演算が苦手な児童には、授業の開始時や合間に問題を出し、基礎学力定着を図る。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	90% (18 人/20 人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	90%(18 人/20 人中)

福生市立福生第一小学校 第6学年1組

1	福生市学力・学	習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国		
	感情の コントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95.8%	94. 9%		
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	79. 2%	77.8%		
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	91.7%	93.7%		
学びに向	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある	70.8%	75.8%		
に向	110,000	26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	100%	92.3%		
かう力	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、から かったりしていない。	87. 5%	84.9%		
//		84 国語の授業で、物語を作ったことがある。	62.5%	74.0%		
	学力と関係が 深い質問	83 国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある。	79. 2%	79.9%		
	(朱/) 頁间	91 社会の授業で、調べたことを、新聞形式でまとめたことがある。	54. 2%	74.0%		
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	Ī			
	言葉·情報·言 語文化	▲全国平均正答率を35.8ポイント下回り、(漢字の書き(うでにほうたいをまく。)設問に 課題がある。				
	話すこと・聞	▲全国平均正答率を10.5ポイント下回り、(森田さんが話し	た内容の順番を	選ぶ)設問に課		
国	くこと	題がある。				
語	書くこと	▲全国平均正答率を16.9ポイント下回り、(話し合いを参考問に課題がある。	に文章を具体的	に書き直す) 設		
	読むこと	▲全国平均正答率を14.4ポイント下回り、(上村さんのイラ) 選ぶ) 設問に課題がある。	ストの効果として	て正しいものを		
	数と計算	▲全国平均正答率を45.1ポイント下回り、(5÷14の商を分	数で表す)設問に	に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を20.4ポイント下回り、(ひし形の面積を	求める) 設問に	課題がある。		
算数	変化と関係	▲全国平均正答率を12.0ポイント下回り、(家から公園まで設問に課題がある。	の道のりで正し	いものを選ぶ)		
	データの活用	▲全国平均正答率を20.7ポイント下回り、(春が好きな人のる。	人数を求める)。	没問に課題があ		

2 児童の実態

【国語】学習に前向きに取り組む児童が多い。特に、漢字50問テストでは平均点が95点を上回るなど、漢字の学習対する意欲は高い。しかし、漢字の書き取りは全国の平均を大きく下回り、課題となっている。また、段落構成を意識した文章を書くことにも苦手意識をもっている。文章を書くときなどに、新しく学習した漢字を活用しておらず、定着につながっていないことが原因である。

【算数】授業のめあてを達成しようとよく考え、伝え合う姿が見られる。 粘り強く取り組む姿勢も身に付きつつある。 しかし、昨年度から続いて、数と計算については課題である。 中でも、第4学年で学習する「わり算の筆算」の習熟が低い。 計算の方法を身に付け、素早く正確に計算する力を付ける必要がある。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

【国語】漢字の学習では、ノートに丁寧に練習を繰り返し、テストに向けて準備をする姿が見られるので、その姿勢は継続して褒める。その上で、まとまった文章を書くときなど学習した漢字を積極的に活用するように促す。また、文章を書く力については、教師が手本となる文章を示しつつ、文章の構成を段落ごとにまとめてから書かせるようにする。

【算数】基礎的な計算については、計算の仕方を授業の中で繰り返し確認する時間を設け、児童が自分の苦手としている計算を捉えさせる。「わり算の筆算」の計算については、授業で取り上げ習熟させる。また、自主学習ノートやミライシードを活用し、繰り返し練習問題に取り組ませることで素早く正確に計算する力を育てる。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	100% (24 人/24 人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	100%(24 人/24 人中)

福生第一小学校 第6学年2組

		田上外		0
1	福生市学力・学	習状況調査の結果		
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
	感情の コントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95.8%	94. 9%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なこと がある	79. 2%	77.8%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	91.7%	93.7%
学び	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある	87. 5%	75.8%
に向		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	87.5%	92.3%
かう力	他者との協働	107 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひと りの心や命を大切にしている。	87.5%	84.9%
1/1		84 国語の授業で、物語を作ったことがある。	54. 2%	74.0%
	学力と関係が 深い質問	83 国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある。	75.0%	79.9%
	休(人)	91 社会の授業で、調べたことを、新聞形式でまとめたことがある。	50.0%	74.0%
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題	Ī	
	言葉・情報・言	▲全国平均正答率を35.8ポイント下回り、(漢字の書き(う	でにほうたいを	まく。) 設問に
	語文化	課題がある。		
	話すこと・聞	▲全国平均正答率を10.5ポイント下回り、(森田さんが話し	た内容の順番を	選ぶ)設問に課
国語	くこと	題がある。		
語	書くこと	▲全国平均正答率を16.9ポイント下回り、(話し合いを参考問に課題がある。	に文章を具体的に	に書き直す) 設
	読むこと	▲全国平均正答率を14.4ポイント下回り、(上村さんのイラ) 選ぶ) 設問に課題がある。	ストの効果として	て正しいものを
	数と計算	▲全国平均正答率を45.1ポイント下回り、(5÷14の商を分	数で表す)設問に	こ課題がある。
	図形	▲全国平均正答率を20.4ポイント下回り、(ひし形の面積を	求める)設問に	課題がある。
算数	変化と関係	▲全国平均正答率を12.0ポイント下回り、(家から公園まで設問に課題がある。	の道のりで正し	いものを選ぶ)
	データの活用	▲全国平均正答率を20.7ポイント下回り、(春が好きな人のる。	人数を求める)。	没問に課題があ

2 児童の実態

【国語】学習に前向きに取り組む児童が多い。特に、漢字の学習では、テストで高得点をとる児童が多い。しかし、普段の中で既習の漢字を使おうとする意識が低く、平仮名で書こうとする児童もいる。また、作文の際には、文章の構成を意識して書くことに苦手意識を感じている児童も少なくない。

【算数】難易度の高い問題にも最後まで解こうとする児童が多い。児童同士で考えを伝え合う姿も見られ、意欲的に学習に取り組んでいる。一方で、基礎的な四則計算の計算ミスが目立ち、立式ができても間違えてしまうことが多い。また、長い文章題になると、場面が想像できずにつまずいてしまう児童も少なくない。

3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組

【国語】漢字の学習では、今後も前向きに学習に取り組む態度を褒めて伸ばしていく。その上で、普段の生活の中で、既習の漢字を使う習慣を身に付けるために、個別に声を掛けたり、児童同士で読み合い指摘し合ったりする場面を意図的に設けることで、定着を図る。また、文章を書く際は、教師が手本となる文章を示したり、段落ごとのメモを作ってから書かせたりする。

【算数】基礎的な四則計算の復習は、朝学習の時間で集中的に学習したり、授業の中でこまめに復習したりする時間を設ける。また、児童同士で計算の仕方について見合うことで、ミスのしやすい場面を話し合わせることで、正答率を高めていく。また、家庭学習やミライシードを活用することで反復学習にも取り組ませる。

個別ドリルの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	95.	8% (23人/24人中)
確認テストの実施状況	令和4年8月末時点で完了している児童	95.	8% (23人/24人中)

令和4年度 授業改善推進プラン (小学校・専科教員用)

福生市立福生第一小学校

ひまわり学級	
児童の実態	○1年生5名、2年生5名、3年生5名、4年生3名、5年生6名、6年生3名の計27名が
	在籍している。
※必要に応じて学年ご	○児童の特性は軽度発達障害や自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動症、運動機能障害、
とに記載	情緒面の不安定さなど様々な物がある。
	○授業へ取り組む態度は積極的な児童や自分の意見を我慢できずに発言してしまう児童、
	なかなか自分の考えがもてなかったり発言したりできない児童など様々である。
	① 集中して話を聞くことができない児童がいる。(全学年)
	② 自分の考えや意見を持つことが難しい児童がいる。(全学年)
	③ 自分が困ったときや分からないことがあったときに支援要求を出せない児童がいる。
	(全学年)
	④ 児童の特性上、学習したことを遅着させるのに時間がかかる。または、時間が経つと
	忘れてしまうことがある。(全学年)
児童の実態を踏まえた	① 言葉のみの説明では集中を維持することが困難だったり、話の内容の力が不十分にな
授業改善の取組	ってしまったりする児童が多いので、視覚的な情報を交えて指導や説明をする。
	② 質問の内容が理解できなかったり、語彙力が不十分なために自分の思いを説明できな
※必要に応じて学年ご	かったりする児童がいるので、児童との対話を重視し、必要に応じて教員が児童の思
とに記載	いを代弁し問いかけてみたり、視覚的な資料や情報を提示して、児童が言葉だけでな
	くジェスチャーや資料を使って自分の思いを表現できるようにする。
	③ 指導補助やTTの教員と連携して、児童の様子を観察し把握できるようにする。必要
	に応じて教員から言葉を掛けたり、カードによって支援要求が出せるようにしたりす
	る。また、授業の中でも支援要求が出せることの大切さを伝え、実践できるように指
	導していく。
	④ 学習したことを定着させるために、毎日記入している連絡帳に、個に応じた学習課題
	を載せておき、毎日少しずつ取り組めるようにしている。また、一度学習したことも、
	問題の内容や数字等を少しだけ変えて、繰り返し学習している。また、時間が経っと
	忘れてしまう児童に対しては、一度完了した課題も、時間を空けて定期的に取り組ま
	せることで定着を図っている。

令和4年度 授業改善推進プラン (小学校・専科教員用)

福生市立福生第一小学校

	福生市立福生第一小字校
算数科	教科担任
児童の実態	○2学級を補充・標準・発展の3コースに分け、習熟に応じた学習指導の中で、児童は学
	習規律を守り、落ち着いて授業に臨むことができている。(全学年)
※必要に応じて学年ご	○5年・6年の発展コースは、応用問題に対しても、既習事項を活用しながら主体的に取
とに記載	り組むことができる。また、友達と対話しながら問題解決を行う中で、理解を深められ
	る児童が多い。(5・6学年)
	○補充コースの児童も自分のペースで学習を進めることができるため、挙手をして発言す
	るなど、自ら学ぼうとする姿勢がある児童が多い。(全学年)
	①福生市学力調査では、数と計算の領域で福生市の平均よりも下回った。(4・6年)
	②福生市学力調査では、思考・判断・表現の観点で昨年度よりも下回った。(4・6年)
	③問題を自分事として捉えられず、分からないことに対して教師に質問をしたり、友達に
	聞いたりすることができない児童がいる。(全学年)
児童の実態を踏まえた	①基礎的な計算技能を定着させるために、ベーシックドリル診断シートを用いて実態を把
授業改善の取組	握する。朝学習の時間を活用して指導を行うとともに、授業においても基本的な計算練
	習の時間を確保して習熟を図る。
※必要に応じて学年ご	②思考・判断・表現力を養うために次のことに重点を置いた指導を行う。
とに記載	・既習事項を活用した問題解決を意図的に行わせることで思考力を育てる。
	・自分の考えをノートに書く時間を十分に確保する。その際、図や式、言葉を関連付けて
	ノートに記述させることで表現力を育てる。
	・互いの考えを伝え合うことで学びが深まる経験を重ねられるようにする。その中で、発
	言することの価値を指導していく。自分の考えを伝えることが難しい児童には、選択形
	式にすることで、自ら判断し、自分の立場や考えをもてるように支援する。
	③授業の終盤で学習した内容を確認するテストを行う。学習の振り返りができるテストを
	行うことで自己評価をさせ、分かるまで取り組む姿勢を養う。質問をしにきたり、友達
	同士学び合たったりする姿勢を褒め、児童にその価値を伝えていく。
図画工作科	教科担任
児童の実態を踏まえた	○授業に熱心な児童が多く、興味をもって真剣に取り組んでいる。(全学年)
授業改善の取組	○チャート式の説明と板書を見て授業を理解できる児童が多い。(全学年)
…①~⑦※必要に応じ	○友達の作品の良い点を参考にして、自分の制作に取り入れることができる。(全学年)
て学年ごとに記載	○制作が上手くいかない時、教師の助言や提案を素直に聞き入れることができる。(全学
※必要に応じて学年ご	年)
とに記載	○友達の作品の良い点をすぐに見つけることができる。(全学年)
C (- B + x	○道具の準備や片づけを班の友だちと協力して行うことができる。(全学年)
	①数分前に説明した授業準備や制作が理解できない児童が数名いる。(全学年)
	②休み時間の遊びに夢中になり急いで移動をするので、忘れ物をする児童が数名いる。(全
	学年)
	③アイデア→下描き→着彩と計画性を持って進めていくことを苦手とする児童が数名い
	る。(低・中学年)
	④思いついた形や色をすぐに実行するのは好きだが、現段階の作品の状態をより良くしよ
	うとする気持ちや工夫する気持ちが少ない。(中・高学年)
	⑤制作中に上手くできない所があると、工夫して改善する方法を思考することが苦手。教
	師側に頼りすぎる児童が多い。(全学年)
	⑥完成予想図を思い浮かべる児童が少ない。(低・中学年)
	⑦題材名や数行の感想文を書くとき、時間がかかってしまう児童が多い。(全学年)
L	

児童の実態を踏まえた 授業改善の取組 \cdots (1) \sim (7) ※必要に応じて学年ご とに記載

- ①見本となる行動を見せる。テレビから作成した動画を何回でも見られるように前もって 録画をしておく。
- ②担任と連携を取り、気になる児童の情報を共有する。次の授業の準備を個別に確認して 指導をする。
- ③黒板にも分かりやすく、チャート式の制作手順を掲示する。時間配分を意識させる掲示 の工夫をする。関連性のある題材を続けて行う。
- ④修正や工夫することによって良くなった児童の作品を称替して、全体に修正と工夫の大 切さを認識させる。
- ⑤児童の行っていた方法とは違う工夫の仕方や修正の方法を近くで見せることにより、作 品がどのように変化したのか意識させる。児童にもできる技術であることを認識させて 意欲をもたせて取り組ませる。
- ⑥授業の最初に児童自身のアイデアスケッチを見せて、終了前に振り返りシートを取り組 ませる。事前に制作した見本となる作品を作成しておく。それによって完成予想図のイ メージを明確にする。
- ⑦作品から抽象的なイメージだけでなく日常的な事にも視点を向けさせて、普段の生活と の関連性を持たせる指導する。作品を振り返り、工夫して上手くいった点や苦労した点 を振り返らせて、感想に取り入れるように指導する。

音楽科

- 児童の実態
- ※必要に応じて学年ご とに記載

教科担任

- ○主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をすることができる。(全学年)
- ○音楽のよさや美しさ、面白さに気付き、様々な音楽に親しむ児童が多い。(全学年)
- ○曲想や楽曲の構造、旋律の様子、歌詞の内容を踏まえて音楽表現を考えられる児童が多 い。(全学年)
- ○設定した条件の中で自分の発想を生かして音楽づくりに取り組める児童が多い。(全学
- ○鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲 全体を味わって聴く児童が多い。(全学年)
- ①基礎的・基本的な発声方法が定着しない児童がいる。(全学年)
- ②音色を意識し、互いの音を聴ながら音を合わせて演奏できる児童が少ない。(低学年)
- ③音色や全体の響きを意識しながら、奏法を工夫して演奏できる児童が少ない。(中・高学
- ④曲想と音楽の構造との関わりに気付き鑑賞できる児童が少ない。(全学年)

児童の実態を踏まえた 授業改善の取組

- ※必要に応じて学年ご とに記載
- ①常時活動の時間を利用し、基礎的・基本的な発声方法を毎時間復習して定着を図る。
- ②様々な音色で演奏する学習を設定し、音色に対する意識を高める。また、友達の演奏を 聴きながら心の中で歌う学習や小さい音量で合奏する学習を各題材で位置付け、互いの 音を聴きながら音を合わせて演奏する力を高める。
- ③曲想や声部の役割に気付く学習を各題材に位置付け、音色や音量、他声部とのバランス を意識して演奏しようとする思いや意図を高める。
- ④曲想を表す言葉の例と音楽の構造を説明する言葉の例を提示し、知覚と感受のつながり に気付けるようにする。